

「高次脳機能障がい」かな？と思ったら

見えない障がいを見過ごさないのも大切な支援です！

*「高次脳機能障がい」とは気付かないまま、発症・受傷からかなりの時間を経過している可能性があります。

相談場面で配慮すること

① 本人・家族の置かれている状況を理解する

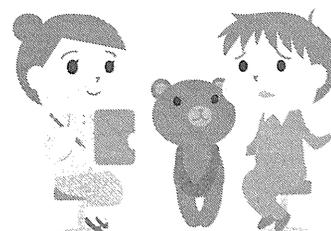
- ・混乱や不安の中にいることを理解し、話をよく聴く
- ・本人の表現をサポートする
- ・本人の疲労に配慮する

② 相談の内容を整理する

- ・本人の生活状況を具体的に把握する
- ・発症・受傷後の経過や障がいに対する考え方を把握する
- ・家族や周囲の話も参考にする

③ 情報提供の仕方に配慮する

- ・内容を整理して伝える
- ・後から確認できるメモや資料を渡す



情報収集のポイント

① 原因疾患を確認する

- ・高次脳機能障がいの診断がされているかを確認します。

② 発症・受傷からの期間を確認する

- ・発症・受傷からの期間によって、本人の状態や障がいの認識、本人・家族のニーズが変化していきます。また、利用できる社会制度も異なります。

③ 障がい及び日常生活状況を確認する。

- ・個々の障がい内容は異なります。適切なサービス内容の検討のために、1日の生活リズムや介助(指示のみも含む)の内容、移動方法や自立の程度等具体的に確認します。どこかの医療機関でどのような治療を受けているかも確認します。

④ 本人・家族のニーズを明確にする。

- ・本人は障がいにより、現状を把握し、ニーズを整理して伝えることが難しくなっています。また、本人と家族のニーズが異なることもあります。時間を十分に取り、それぞれが何を必要としているか、何が問題なのか、ニーズを明らかにすることが大切です。

⑤ 障がいに対する認識について確認する

- ・現在の生活の困難さと障がいとの関係についてどのように感じているかを確認します。
- ・主治医からどのような説明を受けているか確認します。

⑥ 発症・受傷前の生活状況について確認する

- ・高次脳機能障がいは、中途障がいです。発症・受傷前の生活状況について知ることは、障がいが本人に及ぼす影響を把握する上で重要な情報です。
- ・発症・受傷前の生活経験を生かした代償手段や環境調整の検討も有効です。

⑦ 現在の環境について確認する

- ・本人を取り巻く環境についての情報収集も大切です。環境とは、周囲の人、物、制度です。
- ・適切な環境調整により、障がいが軽減したり、日常生活上でできることが増えたり、社会参加がすすむなど生活の質の向上が期待できます。

【参考】東京都「高次脳機能障害者地域支援ハンドブック(改訂版)」一部修正し引用

高次脳機能障害情報・支援センターについて

国立障害者リハビリテーションセンターでは高次脳機能障がいに関する情報を集約し、ホームページで公表しています。

高次脳機能障害情報・支援センターHP:http://www.rehab.go.jp/brain_fukyu/index.htm

使えるサービスと窓口

例えばこんなサービスが

- 障害者手帳について・・・「高次脳機能障がい」と診断されれば、精神障害者保健福祉手帳の申請ができます。就労するときには、身体・知的・精神のいずれかの手帳を持っていれば障がい者雇用の対象となります。
- 介護保険について・・・脳血管疾患が原因の40歳以上の高次脳機能障がいの方は、特定疾病のための介護保険の申請ができます。65歳以上の方も介護の手間に応じて認定を受け、サービスを利用できます。
- 障害年金について・・・条件を満たしていれば、高次脳機能障がいは、《精神の障害用》の診断書によって、障害年金の申請対象になります。

様々な制度と窓口

	区 分	内 容	窓 口
障害者手帳	身体障害者手帳	一定の障がいがあることを証明し、各種福祉サービスを受けることができることを確認する証票です	市町村担当課窓口
	療育手帳		
	精神障害者保健福祉手帳		
障害者自立支援法	介護給付	居宅で入浴等の介護を受ける「居宅介護」や、就労に向けた「就労移行支援」等は、個別に給付決定されます 「地域生活支援事業」は市町村により内容が異なります	市町村担当課窓口 相談支援事業者
	訓練等給付		
	地域生活支援事業		
介護保険	65歳以上1号保険者 40歳以上65歳未満2号保険者	日常生活に介護が必要となった状態や、支障がある場合	市町村担当課窓口
	医療費	医療保険	脳損傷の原因が勤務外の病気やけが、自損事故の場合は公的医療保険の対象となります
労働者災害補償保険(労災)		業務中の事故や通勤事故は労災が適用されます	労働基準監督署・勤務先担当
自動車保険		自賠責保険・任意保険	保険会社
児童生徒の学校管理下における「災害共済給付制度」		学校管理下の事故は、独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害共済給付がうけられます	学校
障がい者の医療費助成制度		自立支援医療 心身障害者医療助成制度	市町村担当課窓口
休業補償	傷病手当金	健康保険組合から支給	勤務先健康保険組合等
	休業給付	業務上の事由または通勤による病気やけがの療養のため賃金が受けられない場合	労働基準監督署、勤務先担当
年金等	障害年金	障害基礎年金 障害厚生(共済)年金	市町村担当課窓口 各年金事務所、各共済組合
	障害補償年金(労災)	業務上の事由または通勤による病気やけがが治ったとき、身体に障がいが残った場合	労働基準監督署 勤務先担当
	雇用保険	雇用保険の被保険者が離職した場合、一定の条件を満たしていれば支給	ハローワーク
	障がい者(児)を対象とした各種手当	特別障害者手当等。いずれも、障害要件や支給制限等があります	市町村担当課窓口
権利擁護	地域福祉権利擁護事業	日常生活を営む上で必要な福祉サービス等を自分で適切に選択・利用するのが困難な方が安心して自立した生活を送るために利用	各市町村社会福祉協議会 各市町村社会福祉協議会・市町村担当課窓口等
	成年後見制度		
生活が困窮したとき	生活保護制度	生活の建て直しのための給付	各市町村担当課窓口
	生活福祉資金貸付制度	各種資金の貸付制度	各市町村社会福祉協議会
家族会		家族会では相談等も受け付けています	p.4
支援拠点医療機関		診断基準・訓練プログラムの普及啓発等	p.4
支援拠点機関	就労(準備)・就学(準備)支援	就労・就学の支援・ネットワークの構築	p.4
	授産事業所利用支援	授産事業所の支援・ネットワークの構築	p.4
	在宅生活支援	在宅生活支援・ネットワークの構築	p.4

お問い合わせはお近くの保健所へ

●道立保健所

渡島保健所	TEL:0138-47-9547
江差保健所	TEL:0139-52-1053
八雲保健所	TEL:0137-63-2168
江別保健所	TEL:011-383-2111
千歳保健所	TEL:0123-23-3175
倶知安保健所	TEL:0136-23-1957
岩内保健所	TEL:0135-62-1537
岩見沢保健所	TEL:0126-20-0121
滝川保健所	TEL:0125-24-6201
深川保健所	TEL:0164-22-1421
室蘭保健所	TEL:0143-24-9847
苫小牧保健所	TEL:0144-34-4168
浦河保健所	TEL:0146-22-3071
静内保健所	TEL:0146-42-0251
上川保健所	TEL:0166-46-5992
名寄保健所	TEL:01654-3-3121

富良野保健所	TEL:0167-23-3161
留萌保健所	TEL:0164-42-8329
稚内保健所	TEL:0162-33-3704
北見保健所	TEL:0157-24-4137
網走保健所	TEL:0152-41-0697
紋別保健所	TEL:0158-23-3108
帯広保健所	TEL:0155-26-9084
釧路保健所	TEL:0154-22-1233
根室保健所	TEL:0153-23-5161
中標津保健所	TEL:0153-72-2168

●各市立保健所

旭川市保健所	TEL:0166-25-6364
小樽市保健所	TEL:0134-22-3110
函館市役所 (精神保健担当)	TEL:0138-21-3077

担当保健所・市町村の連絡先等を記載してください



平成24年3月発行

北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課 精神保健医療グループ

住所:札幌市中央区北3条西6丁目

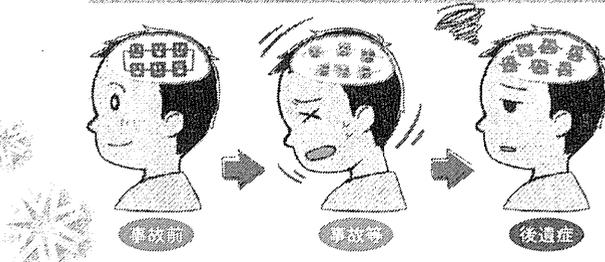
電話:011-231-4111(内線25-736)

*このパンフレットは、北海道高次脳機能障がい者支援連絡会議専門部会で作成したものです

見えない障がい

「高次脳機能障がい」

その方達は、見えない **SOS** を発しています。



発行：北海道医療福祉創生センター障がい福祉課福祉課

専門機関・支援機関があります

専門機関

北海道大学リハビリテーション科(外来)	011-706-7010
・高次脳機能障害支援コーディネーター	011-706-5740
札幌医科大学付属病院リハビリテーション科	011-611-2111(代)

支援機関

こころのリカバリー総合支援センター	011-861-6353
脳外傷友の会「コロボックル」 NPO法人コロボックルさっぽろ	011-858-5600
脳外傷友の会「コロボックル」道東支部	0155-24-6974
脳外傷友の会「コロボックル」道南支部	0138-22-6188
脳外傷友の会「コロボックル」道北支部	011-858-5600
特定非営利活動法人 R e ~らぶ	011-868-7844
「つながり」高次脳機能障がい者を支援する会 (道東脳神経外科病院医康生活相談室内)	0157-69-0300

この他にも、
多くの相談機関が
あります。

見た目ではわかりません

交通事故やスポーツなどで頭をうったり、脳の病気になった方の中には、身体が回復した後も、次のような症状で悩んでいる方がいます。

▼ おこころあたりはありますか？

- すぐに忘れる。新しいことを覚えられなくなった。
- うっかりミスや不注意が多くなった。
- 生活や仕事で段取りをつけたり、計画的に物事をすすめられなくなった。
- 自己主張が強くなった。些細なことにこだわるようになった。
- 欲しいと思うと我慢ができなくなった。
- 子どもっぽくなった。
- 相手の気持ちになって考えることができなくなった。



まずはお近くの保健所へ

◎ 道立保健所

保健所名	電話	FAX
渡島保健所	0138-47-9547	0138-47-9219
江差保健所	0139-52-1053	0139-52-1074
八雲保健所	0137-63-2168	0137-63-2169
江別保健所	011-383-2111	011-383-2185
千歳保健所	0123-23-3175	0123-23-3177
倶知安保健所	0136-23-1957	0136-22-5875
岩内保健所	0135-62-1537	0135-63-0898
岩見沢保健所	0126-20-0121	0126-22-2514
滝川保健所	0125-24-6201	0125-23-5583
深川保健所	0164-22-1421	0164-22-1479
室蘭保健所	0143-24-9847	0143-23-1446
苫小牧保健所	0144-34-4168	0144-34-4177
浦河保健所	0146-22-3071	0146-22-1447
静内保健所	0146-42-0251	0146-42-7202
上川保健所	0166-46-5992	0166-46-5262
名寄保健所	01654-3-3121	01654-3-3224
富良野保健所	0167-23-3161	0167-23-3163
留萌保健所	0164-42-8329	0164-42-8216
稚内保健所	0162-33-3704	0162-32-2253
北見保健所	0157-24-4137	0157-24-4199
網走保健所	0152-41-0697	0152-44-4879
紋別保健所	0158-23-3108	0158-23-1009
帯広保健所	0155-26-9084	0155-25-0864
釧路保健所	0154-22-1233	0154-22-1273
根室保健所	0153-23-5161	0153-24-0343
中標津保健所	0153-72-2168	0153-72-6894

◎ 各市立保健所等

旭川市保健所	0166-25-6364	0166-25-1151
小樽市保健所	0134-22-3110	0134-22-1469
函館市役所 (精神保健担当)	0138-32-1534	0138-27-2770
札幌こころのセンター	011-622-0556	相談予約電話

医療・福祉で
使えるサービスがあります。
ご相談ください。



高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究
(H23-こころ-008)

研究分担者 森悦朗 東北大学大学院医学系研究科教授

研究要旨

東北 6 県すべてで高次脳機能障害の支援拠点が設けられ、県間、および各県内地域において高次脳機能障害者支援の均霑化に向けて活動を展開していく計画であった。しかし平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により太平洋沿岸地域の青森、岩手、宮城、福島で甚大な被害を受け、これらの地域では高次脳機能障害者支援については一旦推進の手を緩めざるを得なかった。被災者には当然高次脳機能障害も含まれることを鑑み、支援の維持に務めた。山形県では庄内地域に新たに高次脳機能障害者支援センターを設置し、支援コーディネーターが配置された。また高次脳機能障害支援普及事業を円滑に実施するため、またブロック内での支援ネットワークの強化を図るべく、二回のブロック会議を開催し、さらに秋田県秋田市で東北ブロックシンポジウムを開催し、医療・福祉・行政・教育関係者、当事者・家族ならびに地域住民に対して高次脳機能障害の理解について普及啓発を行った。一方、高次脳機能障害の発現の機序に関して、特に記憶障害の発現に関していくつかの神経科学的新知見を得た。

A. 研究目的

1. 支援拠点機関と支援ネットワークを運用を支援する。
2. 高次脳機能障害の発現の機序について神経科学的手法を用いて解明する。
3. 震災後の高次脳機能障害者の実態を把握する。

B. 研究方法

東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学分野を中心として、東北厚生年金病院に事務局を置き、各県の協力を得て東北ブロック会議を開催する。また、東北ブロックシンポジウムを開催し、東北 6 県での高次脳機能障害者の地域支援体制を構築する。

個人データを調査する際には下記の倫理面での配慮をなす。

(倫理面への配慮)

調査研究は所属する施設の倫理委員会の承認を経て実施する。調査対象者及び保護者・関係者から、文書等にてインフォームドコンセントを徹底し、調査対象者または保護者・関係者が納得し自発的な協力を得てから実施した。調査対象者の個人情報等に係るプライバシーの保護ならびに如何なる不利益も受けないように十分に配慮した。

C. 研究結果

東北ブロック会議を開催し、東北 6 県における高次脳機能障害支援普及事業を推進した。本事業の総括ならびに次年度以降の東北ブロックにおけるさらなる支援普及を目指し、秋田県庁第二庁舎にて東北各県、ならびに東北大学グローバルCOEの後援により東北ブロックシンポジウムを開催し、132名の参加者があった。

各県の担当者および支援拠点機関の支援コーディネーター他関係者が集い、東北ブロック会議を2回開催した。

新たに山形県庄内地域に山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター（鶴岡協立リハビリテーション病院に業務委託）が設置され、支援コーディネーターが配置された。

D. 健康危険情報 特になし

E. 考察

今年度の東北ブロックシンポジウムでは、一高次脳機能障害者とともによりよく地域で生活していくために一と題して高次脳機能障害の理解なら

びに支援拠点機関を中心に、秋田県の取り組みについて、医療・福祉・教育および行政関係者および一般市民への啓発を目的とし開催した。

また、山形県では庄内地域に高次脳機能障害支援センターを設置し、支援コーディネーターを配置した。また、東北ブロックは6県すべて、支援機関が医療機関に設置されたが、先進県と新しく支援拠点機関設置県では取り組みや体制に差が生じており、地域生活推進に関する高次脳機能障害支援普及事業の取り組みについては、県ごとに状況や体制が異なっているため、支援内容が一定の水準に達しているとは言い難い状況についてはかねてより明らかであった。今後も医療機関で診断・評価および急性期から回復期の治療を経た高次脳機能障害者が、地域で生活するための受け入れ機関の確保および就労支援等、医療機関と福祉機関（あるいは教育機関も含める）の連携が大きな課題になると考える。各県における高次脳機能障害者支援の均霑化を目指すとともに、県を越えた支援も視野に入れた連携体制の確立のために拠点機関および支援コーディネーターの連携の強化、ならびに更なる診断評価の充実と支援体制の確立を図り、高次脳機能障害者が生活しやすい環境整備に力を注いでいく必要がある。

一方、今回の震災・原発事故の影響で、より支援体制の格差が広がり、高次脳機能障害者への支援も若干後退せざるを得ない状況にあることも否めない。特に福島県では沿岸部の相双地区では医師不足が問題視されていたが、今回の震災・原発事故を機に状況は極めて悪化し、障害者が他地域に行くにも支援者がいない等の問題が生じている。近県の医療機関に県を越えてかからざるを得ない状況も報告されている。被災地域の支援に関しては医療全般の復旧と連動するが、県を超えて隣接県の情報を提供し、隣接県が支援すること志向する必要がある。

F. 研究発表

論文発表

- ・西尾慶之, 森悦朗. 記憶障害の神経基盤 間脳性健忘. 高次脳機能研究 31:294-300, 2011
- ・西尾慶之, 森悦朗. 左右前頭葉の機能的差異. Brain Medical 23: 155-162, 2011
- ・平山和美, 遠藤佳子, 岡田和枝, 山鳥重, 森悦朗. 数の音韻, アラビア数字形式間で両方向性の変換障害を呈した左頭頂後頭葉出血の1例. BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩 63: 497-502, 2011
- ・Nishio Y, Hashimoto M, Ishii K, Mori E. Neuroanatomy of a neurobehavioral disturbance in the left anterior thalamic infarction. J Neurol Neurosurg Psychiatry 82: 1195-1200, 2011
- ・Kawata SHK, Hashimoto R, Nishio Y, Hayashi Ao, Ogawa N, Kanno S, Hiraoka K, Yokoi K, Iizuka O, Mori E. A validation study of the Japanese version of the Addenbrooke's Cognitive Examination-Revised. Dement Geriatr Cogn Dis Extra 2: 29-37, 2012

学会発表

- ・目黒祐子, 萱場文, 濱田沙和, 渡邊裕志, 平山 和美, 森悦朗「頭部外傷後の高次脳機能障害例に対する塩酸アマンタジン投与の経験」第35回日本神経心理学会, 宇都宮, 2011年9月
- ・目黒祐子, 萱場文, 濱田沙和, 藤盛寿一, 佐藤滋, 森悦朗: 語義失語様の症状を呈した多発性硬化症の一例, 第35回日本高次脳機能障害学会, 鹿児島, 2011年11月

【平成 23 年度東北ブロック活動方針】

1. 支援拠点機関の設置推進と支援ネットワーク運用

- ▶ 拠点機関同士の支援ネットワークの構築を支援：東北ブロック会議（年度内 2 回）および支援コーディネーター連絡会議の開催
- ▶ 高次脳機能障害の啓発とサービスを利用していない高次脳機能障害者の減少を図ることを目的に、東北ブロックシンポジウムを 11 月 6 日に秋田市（秋田県庁第 2 庁舎大会議室：280 人可能）にて開催予定
- ▶ 東北ブロックの支援体制の均括化、および各県内での支援体制の均括化を図る

2. 認知リハビリテーションの医学的評価と技法と評価尺度の開発継続

- ▶ 東北ブロック傘下の連携医療機関の患者を通じたリハビリテーション技法の臨床効果のデータ集積
- ▶ 医学的にリハビリテーションを受けた患者の長期帰結と福祉モデルにおける評価方法の研究開始
- ▶ 高次脳機能障害者の認知リハとその後の社会復帰状況の共同調査を進める
- ▶ 外傷性脳損傷に対する画像検査法の開発

3. 就労支援体制の整備継続

- ▶ 東北ブロック各県下での自立支援法による高次脳機能障害者受け入れ可能な施設の調査を踏まえた実用的なネットワーク構築
- ▶ 就労支援状況の実態調査

【平成 23 年度 東北ブロックの活動実績】

1. 東北ブロックシンポジウム開催 平成 23 年 11 月 6 日（日）場所：秋田県庁第二庁舎にて開催。秋田県を中心に東北 6 県から 132 名の参加者あり。（詳細は報告書参照）
2. 東北ブロック会議 2 回開催 詳細は以下の通り

<平成 23 年度 東北ブロック会議>

第 1 回 平成 23 年 11 月 6 日（日） 11:00~12:00 場所：秋田県庁第二庁舎 81 会議室
出席自治体 青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県 参加者 計 23 名
(議題)

- 1) 東北ブロック統括 森悦朗
震災後支援に滞りが出てはいけない。地域格差の是正が課題。
- 2) 国リハ学院長 中島八十一
 - ・本事業について側面支援をしていただき、かつ協力のもと充実した支援ができつつあることに感謝申し上げます。
 - ・地域支援事業の概算要求 440 億円から 500 億円で申請。これによって、次年度以降も支

援普及事業の継続ができるとうい。

・高次脳機能障害者情報支援センターが平成23年10月1日付で設置され、平成24年4月1日より本格稼働を目指す。これにより、HPでの情報提供をしていきたい。

3) 東北ブロックシンポジウムの開催について：別紙

4) 各県の高次脳機能障害者支援の取り組みおよび現状報告

青森県：拠点を弘前市に移転しリハ病院の合併し248床でスタート。県南部の相談、訴訟がらみの相談が増えている。患者家族会設立及び協力病院等ネットワーク作りの取り組みについて進めている。

秋田県：平成22年度は各地で講話・意見交換会、連絡会議開催し、今年度も随時取り組んでいる。リハセンターでの相談も17件から27件に増加。家族会の支援に力を入れている。

岩手県：「住民生活に光を注ぐ交付金」「心のケア支援事業」「障害者自立支援対策臨時特別交付金」を活用し、地域コーディネーターおよび心のケア支援員の強化、ならびに宮古を対象とした家族会支援を実施。

いわてリハセンターでは3月11日に連絡協議会を開催予定も中止。4月は安否確認を行い、以後研修会を各種開催。事例集が完成し、今年度中にはリーフレットも作成。*心のケア事業は県として震災とは関係なく包括的に対応。

山形県：鶴岡協立リハ病院を庄内地域の支援拠点機関として設置。失業者雇用基金にて山形病院内の支援センターで社会復帰支援トレーニング事業を開催し、計3名の新規就労者あり。

宮城県：震災対応として高次脳機能障害家族会を実施。NPO「ほっぷの森」が就労移行支援事業として家族教室を気仙沼で開催し、宮城県としてはその後方支援を行った。

東北厚生年金病院としては、9月から回復期リハ病棟が稼働し、それまで、神経内科を主に高次脳機能障害短期入院等を数例実施。平成23年11月15日「多発性硬化症の高次脳機能障害」と平成24年2月17日「高次脳機能障害の理解と臨牀的対応」専門研修会を開催予定。

福島県：震災および原発事故（未収束）によりトリアージの遅れがあった。今後は南東北病院と協力して連絡協議会の立ち上げと高次脳機能障害者の実態把握を予定。

南東北病院としては昨年来実施している浜通り・中通り・会津地方の自立支援担当者と意見交換会および症例検討会を継続し、地域格差の是正のためにアウトリーチを試みている。

*いわき地区・浜通りは元来少ない医師の流出が大きく影響を及ぼしている。

5) 東北ブロックの今後の取り組みについて

情報発信のために、震災被害を受けていない県からの支援のあり方も検討すべきか。

今年度予定していた医師向けセミナーは来年開催できるよう、準備を進める。

第2回 平成23年2月3日（金） 13：30～16：00 場所：宮城県庁舎10階 農林水産部会議室

出席自治体 青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、仙台市、福島県 参加者 計17名

内容

1) 各県の高次脳機能障害者支援の取り組みおよび現状報告

2) 平成23年度東北ブロックシンポジウム開催報告

3) 平成24年度東北ブロックおよび今後の取り組みについて

(シンポジウム開催を含む)

4) その他連絡事項

議事

1) 各県の取り組みについては以下実績参照。

平成 22 年 3 月 11 日の震災後、沿岸部への訪問や支援を岩手、宮城、福島は実施している。

- ・岩手ではイーハトーブ（家族会）が盛岡市と宮古市との交流を実施。
- ・宮城県では気仙沼市立病院を中心に家族会交流会が開始された。石巻地域については未知数。

今後は在宅調査に取り組み、対応を検討していく予定。

・福島では相双地区の医療機関が被災し、もともと医療過疎地域であったところへ原発事故の影響で医師不足が深刻化し、手帳や診断書の申請に困窮を極めつつある。

➤ 被災 3 県沿岸部の被災者支援については、仮設住宅入居者に比し、非入居者（民間みなし設住宅入居者や、被災住居に継続してすんでいる住民）の情報不足、そこから派生する支援不足が顕在化し、各種支援の地域格差が更に被災により大きくなっている。特に、福島県の相双地区の医師不足により、相談機関がなく、地域に診断のできる医師がいないこと、他地域へ相談に行くにしてもつれていけるマンパワーがないことなど、人材不足が深刻である。沿岸部地域については、チームで医師やコメディカルスタッフや支援者を派遣し、地元での体制が整うまで支援を実施する等、国のバックアップ体制が必要で、連絡協議会で提言していくこととする。

2) 平成 23 年度東北ブロックシンポジウム報告（報告書参照）

3) 平成 24 年度の事業計画について：

- ① 東北ブロックシンポジウムを開催予定。開催地は福島県もしくは岩手県で検討。
- ② 高次脳機能障害の診断ができる若手医師のためのセミナーの開催実現。
- ③ 学齢期の高次脳機能障害の支援について、地域ごとに対応を検討していく。

青森県では千葉リハ太田先生主導のワーキンググループに参加中。

4) 連絡事項：各県の講演会の案内など。

【各県における取り組み】

<青森県>

支援拠点機関：(財) 黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

支援コーディネーター（職種）

言語聴覚士（1名）医療ソーシャルワーカー（1名）

当事者／家族からの直接相談のべ件数（23年度の集計可能な月まで）

電話 72 件

来院／来所 26 件

メール・書簡 0 件

その他（訪問・出張・同行等） 1 件

機関・施設等からの間接相談のべ件数

電話 87 件

来院／来所 1件
メール・書簡 2件
その他（訪問・出張・同行等） 1件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

・訪問ケース会議

日時：2011.9.21 参加者：5名

日時：2011.10.12 参加者：4名

・青森県高次脳機能障害連絡調整会議

日時：2011.10.17 参加者：11名

・青森県脳外傷等高次脳機能障害者リハビリテーション講習会

日時：2012.1.7 対象者：行政・福祉・医療関係者 参加者：207名

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

・2011.8.21 青森県継続看護研究集会

・2011.9.17 施設職員対象の研修会

・2011.11.12 交通事故被害者生活支援教育研修会（青森県医療ソーシャルワーカー協会主催）

・2011.12.4 高次脳機能障害者支援マップ作成事業ワーキング検討会議（第2回）

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD等の発行や配布など）

・リーフレット作成（拠点機関移転のため）

調査・情報収集活動（実態調査・地域支援機関マップの作成など）

・準備中

診断評価・リハビリテーションなど

・診断・評価・診断書作成

その他の支援活動

・家族交流会（2回／年）

<秋田県>

支援拠点機関：秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

支援コーディネーター（職種）1人

当事者／家族からの直接相談のべ件数

電話 20件

来院／来所 1件

メール・書簡 0件

その他（訪問・出張・同行等） 0件

機関・施設等からの間接相談のべ件数

電話 16件

来院／来所 2件

メール・書簡 0件

その他（訪問・出張・同行等） 1件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

◇ 高次脳機能障害講演会（日本損害保険協会助成）

対象：当事者とその家族、医療・福祉・行政などの分野で高次脳機能障害に関わる方、高次脳機能障害に興味がある方

参加者数：152名

◇ 勉強会 1回6名（秋田県立リハビリテーション・精神医療センター職員、秋田障害者職業センター職員）

◇ ケース会議 2回14名（秋田県立リハビリテーション・精神医療センター職員、秋田障害者職業センター職員）

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

◇ 平成23年度第1回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

◇ 平成23年度第1回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会

◇ 平成23年度第1回東北ブロック会議及び東北ブロックシンポジウム

◇ 平成23年度第1回高次脳機能障害支援普及事業相談支援ネットワーク委員会

◇ 家族会 2回参加

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD等の発行や配布など）

◇ 講演会等でのリーフレット配布

◇ ウェブサイト（秋田県立リハビリテーション・精神医療センターホームページ、秋田県ホームページ）

調査・情報収集活動（実態調査・地域支援機関マップの作成など）

◇ 施設訪問 6施設（就労支援を行っている施設）

診断評価・リハビリテーションなど

◇ 専門外来

◇ 入院、リハビリテーション

その他の支援活動

◇ 家族会支援（郵送物作成、会報作成、連絡調整等）

<岩手県>

支援拠点機関名 いわてリハビリテーションセンター

支援コーディネーター（職種）

社会福祉士1名、臨床心理士1名、作業療法士1名、言語聴覚士1名

当事者／家族からの直接相談の件数

電話 62件

来院／来所 70件

メール・書簡 4件

その他（訪問・出張・同行等） 17 件

機関・施設等からの間接相談のべ件数

電話 50 件

来院／来所 2 件

メール・書簡 14 件

その他（訪問・出張・同行等） 1 件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

連絡会・協議会 3 回 37 人

研修会・講習会 1 回 70 人

ケース会議 16 回 85 人

勉強会・研究会 0 回

家族会・交流会 0 回

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

連絡会・協議会 1 回 15 人

研修会・講習会 3 回 450 人

ケース会議 1 回 10 人

勉強会・研究会 0 回

家族会・交流会 0 回

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD 等の発行や配布など）

- ・平成 22 年度にパンフレットをリニューアル作成。
- ・平成 19 年度にホームページを開設。現在ホームページのリニューアル準備中。
- ・今年度脳卒中リーフレットを作成することで準備中。

調査・情報収集活動（実態調査・地域支援機関マップの作成など）

- ・平成 21 年度に支援機関マップを作成。

診断評価・リハビリテーションなど

- ・予約制で高次脳機能障害外来を実施している。
- ・外来リハビリは患者の状況に応じて週に 1～2 回程度行っている。

その他の支援活動

- ・脳外傷友の会「イーハトーヴ」主催の集団訓練プログラム「オレンジクラブ」に職員を派遣。
- ・県立療育センター主催の高次脳機能障害支援プログラムに職員を派遣。

<山形県>

支援拠点機関名

- ・山形県高次脳機能障がい者支援センター(独立行政法人国立病院機構山形病院 内)
- ・山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター

支援コーディネーター（職種）

・ 社会福祉士、(内 1 名は精神保健福祉士併有)

・ 山形県高次脳機能障がい者支援センター分

当事者／家族からの直接相談のべ件数

電話	95 件	
来院／来所	137 件	
メール・書簡	9 件	
その他（訪問・出張・同行等）	14 件	計 255 件

* その他 14 件の内訳

・ ケース会議	5 件
・ 復職支援・就労支援・職場定着支援のための職場訪問	4 件
・ 就労支援のための公共職業安定所への付き添い	5 件

※就労・復職・職場定着支援は、公共職業安定所、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターと連携し、行っている。

機関・施設等からの間接相談のべ件数

電話	49 件	
来院／来所	3 件	
メール・書簡	0 件	
その他（訪問・出張・同行等）	0 件	計 52 件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

◇第 1 回山形県高次脳機能障がい研修会(H23,6,13)

対象：医療・福祉関係者 参加者：153 名

◇高次脳機能障がい者支援センター運営委員会(H23,12,31 まで) 5 回開催 出席者：病院内スタッフ

◇ケース会議(H24,1,20 まで) 5 回開催 参加者：本人、家族、病院内スタッフ、地域支援者

◇巡回相談(H23,11,17 H 23,12,14) 相談件数 7 件 担当：医師、コーディネーター

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

◇平成 23 年度第 1 回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議 参加（H23,7,5）

◇平成 23 年度高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会及び厚生労働科学研究費「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」第 1 回全体会議 参加（H23,7,6）

◇平成 23 年度高次脳機能障害支援事業関係職員研修会 参加（H23,7,6~H23,7,8）

◇山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター開所式 出席（H23,7,26）

◇平成 23 年度第 5 回長井市ケアマネジャー連絡協議会にて講演（H23,8,22）

「高次脳機能障がい者への対応」「高次脳機能障害者への支援について」

◇第 5 回山形県高次脳機能障がいリハビリテーション講習会（H23,9,10）

対象：当事者、家族、医療・福祉関係者、一般等 参加者：194 名

◇ふれあい合同面接会 出席（H23,9,27）

◇第 65 回国立病院総合医学会にて発表（H23,10,7~H23,10,8）

「医療機関に併設された高次脳機能障がい者通所教室の試み～入院患者の参加を通して～」

◇平成 23 年度作業療法士研修会(国立障害者リハビリテーションセンター学院)参加

(H23,10,12~H23,10,14)

◇日本脳外傷友の会 全国運営委員会、全国交流会 出席 (H23,10,14)

◇日本脳外傷友の会第 11 回全国大会 2011in ながの 参加 (H23,10,15)

◇ケース会議(山形公共職業安所にて) 出席 (H23,10,21)

◇第 48 回日本リハビリテーション医学会学術集会にて発表 (H23,11,2~H23,11,3)

「病院に併設された高次脳機能障害者通所教室の試み」「地域連携－地方からの発信－高次脳機能障がい者支援事業を通してみえてきたこと」

◇東北ブロック会議及び東北ブロックシンポジウム 参加 (H23,11,6)

◇平成 23 年度山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター研修会 参加 (H23,11,19)

◇平成 23 年度山形地域職業リハビリテーション推進フォーラム&福祉施設等就労支援セミナー

～発達障害、精神障害者等の就職・定着困難者に対する職場内支援のあり方を考える～ 参加

(H23,11,21)

・山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター分

当事者／家族からの直接相談のべ件数

電話 30 件

来院／来所 40 件

メール・書簡 5 件

その他（訪問・出張・同行等） 4 件

機関・施設等からの間接相談のべ件数

電話 12 件

来院／来所 0 件

メール・書簡 4 件

その他（訪問・出張・同行等） 0 件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

平成 23 年 8 月 5 日 ケース会議 参加者 9 名

11 月 19 日 山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター研修会 参加者 83 名

12 月 21 日 ケース会議 参加者 7 名

平成 24 年 1 月 19 日 茶話会（交流会） 参加者 6 名

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

平成 23 年 7 月 30 日 「障がいを持っていても安心して暮らせる町づくり」シンポジウム 7 名参加

9 月 10 日 第 5 回山形県高次脳機能障がい者リハビリテーション講習会 4 名参加

10 月 4 日 つるおか福祉塾 講師

「高次脳機能障害、支援センター業務について」 10 名参加

11 月 6 日 高次脳機能障がい支援事業 東北ブロックシンポジウム 2 名参加

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD等の発行や配布など）

- ・パンフレット配布・郵送
- ・協力事業所へ挨拶（訪問）8件

診断評価・リハビリテーションなど

- ・診断評価9名
- ・リハビリテーション評価8名（うち通院3名）

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD等の発行や配布など）

- ◇『厚生福祉』（時事通信社 H23,4,1 発行）「医療と連携した社会復帰支援を」掲載
- ◇山形県高次脳機能障がい者支援センターパンフレットの改訂
- ◇『YNH 地域医療連携室だより』（国立病院機構 山形病院 地域医療連携室 H23,12,15 発行）
「高次脳機能障がい通所教室「暁才」の活動」掲載

調査・情報収集活動（実態調査・地域支援機関マップの作成など）

- ◇高次脳機能障害画像所見陰性例の調査(国立障害者リハビリテーションセンター)

診断評価・リハビリテーションなど

- ◇高次脳機能障害専門外来での診断評価
- ◇入院、通院におけるリハビリテーションの実施

その他の支援活動

- ◇高次脳機能障がい通所教室「暁才」の運営（H22,8,31~H24,1,20）

延べ利用者数	1836名
累計利用者数	35名
利用者数(H24,1,20 現在)	24名
就職状況：就労	5名・内定1名
累計見学・視察者数	89名

- ◇山形県高次脳機能障がい者家族会「さくらんぼ」との連携

- ◇山形県高次脳機能障がい者家族会「さくらんぼ」第3回定例総会(H23,5,8) 参加
- ◇山形県高次脳機能障がい者家族会「さくらんぼ」第20回定例会(H23,7,10) 参加
- ◇山形県高次脳機能障がい者家族会「さくらんぼ」第21回定例会(H23,10,2) 参加
- ◇山形県高次脳機能障がい者家族会「さくらんぼ」第22回定例会(H23,11,13) 参加
- ◇山形県高次脳機能障がい者家族会「さくらんぼ」第23回定例会(H24,1,8) 参加

<宮城県>

支援コーディネーター（職種）

- ・東北厚生年金病院 言語聴覚士（臨床心理発達士） 1名
- ・宮城県リハビリテーション支援センター 言語聴覚士，作業療法士 2名

当事者／家族からの直接相談のべ件数

電話	153 件
来院／来所	56 件
メール・書簡	4 件

その他（訪問・出張・同行等） 22 件

機関・施設等からの間接相談のべ件数

電話 78 件

来院／来所 3 件

メール・書簡 0 件

その他（訪問・出張・同行等） 10 件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

* 連絡調整会議 1回

平成23年7月8日 気仙沼管内高次脳機能障害支援者会議 参加人数12名

* 研修会 3回

- ・ 平成23年9月9日 宮城県高次脳機能障害者支援スタッフ研修会（基礎講座研修①）
対象 行政の障害者支援担当者，相談支援事業所職員
参加人数 45名
- ・ 平成23年11月15日 「高次脳機能障害者の各症状や対応方法について」
対象 仙南圏域に在住する高次脳機能障害者およびその家族，関係者等
参加人数 24名
- ・ 平成23年11月25日 平成23年度第1回宮城県高次脳機能障害専門研修会
「多発性硬化症の高次脳機能障害」 東北厚生年金病院神経内科主任部長 藤盛寿一先生
対象 OT, PT, ST, 医師, 看護師, 保健師, ケアマネージャー, ソーシャルワーカー, 相談員
参加人数 76名
- ・ 平成24年2月17日 平成23年度第2回宮城県高次脳機能障害専門研修会
「高次脳機能障害の理解と臨床的対応」山形大学医学系研究科高次脳機能障害学分野
教授 鈴木匡子先生
対象 OT, PT, ST, 医師, 看護師, 保健師, ケアマネージャー, ソーシャルワーカー, 相談員
参加人数 124名
- ・ 平成24年2月29日 平成23年度宮城県高次脳機能障害者支援スタッフ研修会（基礎講座研修②）「医療，福祉，就労，継続した支援を目指して」
対象 市町村，保健福祉事務所，相談支援事業所，障害者就業・生活支援センター，就労関係事業所，医療機関，地域包括支援センター等の高次脳機能障害者・家族支援者
- ・ 平成24年3月9日 平成23年度宮城県高次脳機能障害者支援スタッフ研修会（基礎講座研修②）「若年高次脳機能障害者への支援の実際」
対象 市町村，保健福祉事務所，相談支援事業所，障害者就業・生活支援センター，就労関係事業所，医療機関，教育関係機関等の高次脳機能障害者・家族支援者

* ケース会議7回

* 家族交流会 8回 参加人数73名

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

- * 平成 24 年 1 月 21 日 宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会（日本損害保険協会助成事業）
 - * 家族会、家族交流会等 3 回 参加人数 56 名
家族会立上げのための打合せ 1 回 参加人数 5 名
 - * ケース会議 11 回（病院、市町村、施設主催）
- 診断評価・リハビリテーションなど
- 東北厚生年金病院 診断評価 20 名 内リハビリテーション実施者 15 名
宮城県リハビリテーション支援センター
- その他の支援活動
- 東北厚生年金病院 震災後の安否確認と避難状況についての聞き取り調査
-
- * オブザーバー参加の仙台市では、就労・支援センターや民間の支援機関と連携して高次脳機能障害者の就労支援を実施中。近々事例集をまとめていく予定。

<福島県>

- ・支援拠点機関名
(財) 脳神経疾患研究所附属総合南東北病院
- ・支援コーディネーター（職種）
社会福祉士 社会福祉士・精神保健福祉士

当事者／家族からの直接相談のべ件数

電話	1 5 6 件
来院／来所	1 3 6 件
メール・書簡	件
その他（訪問・出張・同行等）	件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

高次脳機能障がい者に関する症例報告会（会津若松 32 名、相双地区 18 名）

患者家族サロン（毎月第 3 土曜日に実施）9 回 延べ 35 人

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

損保協会 80 名

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD 等の発行や配布など）

- ・パンフレットの配布
- ・福島県のホームページに「高次脳機能障がいについて」をアップ

その他の支援活動

- ・東日本大震災時には、障がいごとに避難所等での支援についてホームページ上で情報提供

高次脳機能障害支援体制の整備状況について(23年度東北ブロック一覧表)

	青森県	秋田	岩手	山形	宮城	福島
高次脳機能障害支援普及事業の実施予定	平成21年度から実施	平成18年度から実施	平成19年度から実施	平成20年12月から実施	平成18年度から実施	平成19年度実態調査実施 平成20年度支援拠点機関設置
支援拠点機関名	財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター	財団法人 いわてリハビリテーションセンター	支援拠点施設 山形県高次脳機能障がい者支援センター (山形病院に業務委託) 山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター (鶴岡協立リハビリテーション病院に業務委託)	<支援拠点施設> 宮城県リハビリテーション支援センター <拠点病院> 東北厚生年金病院	財団法人 脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院 (相談支援室業務委託)
支援コーディネーター	言語聴覚士 医療ソーシャルワーカー	1人	医療社会事業士 作業療法士 言語聴覚士 臨床心理士	社会福祉士・ 精神保健福祉士	作業療法士1名(リハセ) 言語聴覚士2名(年金病院, リハセ)	社会福祉士 精神保健福祉士
支援体制整備関連会議の開催について	青森県高次脳機能障害支援普及事業検討会(保健医療関係者、行政関係者等)	秋田県高次脳機能障害支援普及事業相談支援ネットワーク委員会 (支援拠点機関代表・医療関係者・相談支援関係者・福祉関係者・就労支援関係者) 平成23年10月13日開催	岩手県高次脳機能障害者支援普及事業連絡協議会(医療関係者・福祉関係者・学識経験者・関係機関団体等の役員)	山形県高次脳機能障がい者支援事業支援協力医療機関ネットワーク会議	宮城県高次脳機能障害者支援対策推進会議 (学識経験者、拠点病院・支援拠点施設、関係医療機関、関係事業所、関係団体、関係行政機関の各代表者等)	未実施
相談支援の実施状況	直接相談: 電話(72件)来院(26件) 訪問、出張等(1件) 間接相談: 電話(87件)来院(1件) メール等(2件) 訪問、出張等(1件)	平成23年12月末 ①電話相談:直接 20件 間接 16件 ②来所相談:直接 1件 間接 2件 ③その他:間接 1件	平成23年11月末 ①電話相談 112件 ②来院相談 72件 ③メール等 18件 ④その他 18件	平成24年1月20日現在 ①電話相談 125件 ②来所相談 177件 ③メール相談 14件 ④その他 18件 ⑤関係・関連施設相談支援 68件 (各保健福祉事務所対応件数含む)	平成23年12月 ①電話相談 153件 ②来所相談 56件 ③訪問等 22件 ④メール相談 4件 ⑤間接相談 91件 (各保健福祉事務所対応件数含む)	平成23年12月末 ①電話相談 136件 ②来所・来所 156件
研修会やセミナーの開催状況	平成23年1月7日(土) 青森県高次脳機能障害研修会(207名参加) 家族交流会(2回/年)	平成23年11月6日(日) 東北ブロックシンポジウム (132名参加) 平成23年10月15日(土) 高次脳機能障害講演会 (152名参加)	12/8~9 地域コーディネーター養成研修会 3/1予定 医師対象研修会 脳損傷リハ講習会支援 11/19(盛岡)	山形県高次脳機能障がい者支援センター研修会(平成23年6月13日) 山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター研修会(平成23年11月19日) 巡回相談3回	【研修会】 平成23年9月9日 高次脳機能障害者支援スタッフ研修会(基礎講座研修①) 平成23年11月15日 圏域研修会 平成23年11月25日 高次脳機能障害専門研修会 【家族交流会・家族会】 ・3か所8回開催(延73名) ・開催協力2か所4回(延61名)	高次脳機能障がい者に関する症例報告会3回 患者家族サロン(毎月第3土曜日に実施)9回 平成24年2月26日高次脳機能障がい講習会実施予定

東北ブロック拠点機関

青森県 財団法人 黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーション病院

秋田県 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

岩手県 財団法人 いわてリハビリテーションセンター

山形県 山形県高次脳機能障がい者支援センター・国立病院機構山形病院

山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター・鶴岡協立リハビリテーション病院

宮城県 宮城県リハビリテーション支援センター

東北厚生年金病院

福島県 財団法人 脳神経疾患研究所附属総合南東北病院

厚生労働科学研究費 障害者対策総合研究事業

「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」平成23年度東北ブロックシンポジウム

1. シンポジウム名

厚生労働科学研究費 障害者対策総合研究事業

「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」

東北ブロックシンポジウムー高次脳機能障害者とともによりよく地域で生活していくためにー

後援：青森県 秋田県 岩手県 福島県 宮城県 山形県 東北大学グローバル COE

2. 実施日：平成 23 年 11 月 6 日（日）

3. 実施場所：秋田県庁第二庁舎 8 階大会議室 〒010-8572 秋田市山王 3 丁目 1-1

4. プログラム

主催者より挨拶 東北大学医学系研究科高次脳機能障害学分野 教授 森 悦朗

(厚生労働科学研究費 障害者対策総合研究事業 東北ブロック統括責任者)

開催県後援代表者 祝辞 秋田県副知事 堀井啓一様

第一部 「高次脳機能障害の臨床的対応」

司会 秋田県立病院機構秋田県立脳血管研究センターリハビリテーション診療部長 佐藤雄一先生

高次脳機能障害の基礎的理解

山形大学医学系研究科高次脳機能障害学分野教授 鈴木匡子先生

高次脳機能障害の臨床的問題について

財団法人 脳神経疾患研究所 総合南東北病院 神経心理学研究部門 佐藤睦子先生

第二部 「高次脳機能障害の社会的対応」

司会 厚生労働科学研究費 障害者対策総合研究事業 東北ブロック統括責任者

東北大学医学系研究科高次脳機能障害学分野 教授 森 悦朗

高次脳機能障害支援普及事業の動向と今後の展望

国立障害者リハビリテーションセンター 学院長 中島八十一先生

秋田県の高次脳機能障害支援普及事業の実績と今後の展望

秋田県立病院機構秋田県立リハビリテーション精神医療センター診療部長 下村辰雄先生

閉会のあいさつ

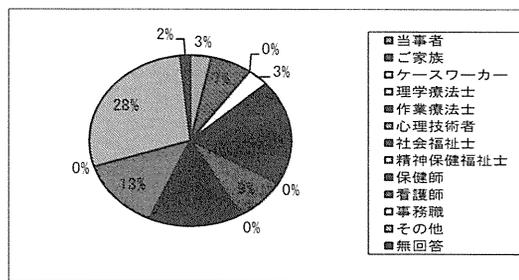
秋田県立病院機構秋田県立リハビリテーション精神医療センター

副病院長 佐山一郎 先生

5. 参加者数： 132 名

6. 参加者内訳（アンケート回答者数 60 名）

当事者	2
ご家族	4
ケースワーカー	0
理学療法士	2
作業療法士	12
心理技術者	0
社会福祉士	5
精神保健福祉士	0
保健師	9
看護師	8
事務職	0
その他	17
無回答	1
合計	60



その他の職種内訳： 言語聴覚士(6)、医師(5)、教員(2)、事業所管理者(1)、相談支援員(1)、介護福祉士(1)、生活支援員(1)

東北ブロックシンポジウム実行委員

実行委員長 森 悦朗 (東北大学大学院医学系研究科 高次脳機能障害学分野教授)

会計 支倉 史絵 (東北大学大学院医学系研究科 高次脳機能障害学分野事務補佐員)

会計 佐藤 みゆき (東北大学大学院医学系研究科 高次脳機能障害学分野事務補佐員)

佐藤 道子 (秋田県健康福祉部障害福祉課 調整・障害福祉班 主幹)

小笠原美央子（秋田県立病院機構 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 高次脳機能障害支援コーディネーター）

事務局 目黒 祐子（東北厚生年金病院 言語心理部 係長）

東北ブロック委員

青森県健康福祉部障害福祉課

岩手県保健福祉部障害保健福祉課

秋田県健康保健福祉部障害福祉課

山形県健康福祉部障がい福祉課

宮城県保健福祉部障害福祉課

福島県保健福祉部障がい福祉課

各県支援コーディネーター